

日経産業新聞

1993年(平成5年)1月29日(金曜日)



レイシスソフトウェアサービスはソフトウェアの開発会社。単に企業からの受託開発をするだけでなく、ユニークな独自ソフトを開発している。

設立は八九年三月。小野逸二社長はSE(システムエンジニア)としてある会社に勤めていたが、SEは顧客企業に派遣され議論しながら仕事を進めていくことが多かったので、人間関係の悩みがつきまとうた。そこで人間セミナーのよちな所へ通っているうちに、一人

レイシスソフトウェアサービス

ユニークな独自ソフト開発

生一度しかない、やりたいうことをやる」と考え、独立を思い立った」といふ。

当初は外国株式資産の運用など金融関係のシステム開発を手がけていたが、現在では製鉄関係の生産管理システム、またコンピュータグラフィックスを使つての開発もこなしている。取引先企業は



本社大阪市西区、社長小野逸二氏(35) 写真、資本金千五百万円、九三年一月期売上高(見込み)一億八千万円。従業員二十一人。主要取引

銀行大和銀行梅田支店。☎06・

5332・9357。

約十社。

バブル崩壊後の景気低迷で「ソフト会社は八千社から五千社ほどにまで減った」と小野社長はみても、この業界を取り巻く状況は厳しい。小野社長は生き残り他社との差別化を目指し、自社商品のソフト開発に力を入れている。その第一弾として昨年九月にアマチュア無線の交信記録管理ソフト「ワールドログ」を発売した。今まであまりなかったソフトという事で注目を集め、すでに百三十本を販売した。「趣味のものには消費者はお金を惜しまないよちだ。ゴルフ関連などのソフトも手がけてみたい」と小野社長は意欲的だ。